

発想の転換

今回の入院中に来年度のことをいろいろと考えていました。幸い手術は成功し、現状においては最善の状態にまで回復することができましたが、今後も何らかの治療が必要であり、今までと全く同じ仕事・生活に戻ることはできないことが明らかとなったからです。

中学3年間責任を持って生徒を指導できないのならば、中学クラスは閉じるべきではないかとも考えましたが、それもまた現塾生に対して無責任な行動のように思え、何とか解決策を思案していました。

結論から言えば、来年度中学クラスは中3の5科目と中1・2の理社国を私が担当し、中1・2の英数は大学生の講師に任せることにいたしました。本来なら当塾の中心科目の英数を私に担当して欲しいと思われるかもしれませんが、今後の治療で再入院等があった場合、結局多くの塾生の方に迷惑をかけることになるため、あえてこうさせていただくことといたしました。

また、「大学生の講師が指導する」というと世間の個別指導塾のイメージを持たれるかもしれませんが、あくまでも私の代わりに彼ら（大学生講師）に授業を任せるわけですから、もちろん私が彼らを徹底指導します。つまり講師を育てることにより、塾生を直接指導できないハンデを克服しようというものです。

さらに理社国は、昨年来書いています、「国際社会に通用する日本人を育てる」という目標のためにぜひ私自身が担当したいと考えているものであり、従来の教科指導の枠にとらわれない授業を行っていくつもりです。

今回の病気で、当初は「あれもできない」「そこまではやれない」と否定的な面ばかりに目が奪われていましたが、むしろそうなってしまったからこそ「こんなことならできる」「これは私にしかできない」という発想の転換をする時間を持てたことがよかったと思います。

病棟の患者さんは闘病生活を送りつつも、概して明るく生きることに前向きです。一方テレビからは若者が集団自殺したというニュースが流れます。肉体的には健康体である人が生きることになぜ背を向けたのか残念でなりません。自らの身に降りかかった災難や不幸、そうした逆境を乗り越えるには、ほんの少し発想を転換することで充分なのではないかと思えます。

'04年度2学期通知表結果

9科目別平均	英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技家	9科目計
学年 1	4.6	4.5	3.6	4.0	3.8	20.5	3.6	3.6	3.6	3.6	34.7
2	5.0	4.8	4.3	4.5	4.5	23.0	4.5	4.0	3.8	3.5	38.8
3	4.8	4.9	4.3	4.3	4.6	23.0	4.1	3.9	3.9	4.3	39.3